

「オキナワ」に向き合う

—私たちの責任とは

乗松 聡子

(『アジア太平洋ジャーナル：ジャパンフォーカス』エディター)

コーディネーター：デニス・リチェズ

日時：2018年6月7日(木)16:30～18:

会場：成城大学7号館2階723教室

孤立していない

世界から
沖縄への声、声、声。

乗松聡子

沖繩は

ジョン・ダワー、ダニエル・エルズバーク、ノーム・チョムスキー、オリバー・ストーン、ピーター・カズニック、ガバン・マコーマック、アン・ライト、ハーバート・ピックス、アレクシス・ダデン、ジャン・ユンカーマン、権赫泰、リチャード・フォーク

世界の識者が「オキナワ」への責任と決意を語る!

全曜日

私は、日本人として、沖縄のことをあまり知らないでいました。遅まきながら、沖縄の「平和」について考え始めたのは40歳になった後でした。これからの社会を担う大学生には、私のようであって欲しくありません。日本「本土」からもたくさんの観光客が訪れる沖縄ですが、意外と「知らない」、「知らされていない」、「知ろうとしない」、「間違って知らされている」ことがあるのではないのでしょうか——日米政府が「安保」の名の下に、「抑止力」と称して沖縄に置き続け、増やそうとさえしている軍事基地。そこに住む人々は様々な被害を受けています。この問題を、私たちはどう捉え、どう取り組めばいいのでしょうか？私の体験を語り、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

乗松聡子：東京出身。カナダ西海岸に住んで23年。ブリティッシュコロンビア大学経営学修士。同大学で異文化間コミュニケーションを教えるかたわら、2007年、平和教育団体・「ピース・フィロソフィーセンター」(peacephilosophy.com)を設立した。『アジア・太平洋ジャーナル：ジャパンフォーカス』エディターとして、社会正義・歴史認識・戦争責任・米軍基地・核問題等について研究・執筆・教育活動を行う。著書に、*Resistant Islands: Okinawa Confronts Japan and the United States* (2012、G. McCormackとの共著。和訳『沖縄の怒—日米への抵抗』)、『よし、戦争について話そう！戦争の本質について話をしようじゃないか！』(2014年、O. Stone*・P. Kuznick*と共著)、編著書『沖縄は孤立していない』(2018年)などがある。



*Oliver Stone (オリバー・ストーン)：映画監督。代表作『プラトーン』『7月4日に生まれて』『ウォール街』、『JFK』『スノーデン』など。

*Peter Kuznick (ピーター・カズニック)：アメリカン大学歴史学教授。ストーンとの共著『もう一つのアメリカ史』などがある。



CENTER FOR GLOBAL STUDIES
SEIJO UNIVERSITY

〒57-8511 東京都世田谷区成城6-1-80
成城大学 グローバル研究センター
Center for Global Studies, Seijo University,
6-1-20 Seijo, Setagaya-ku, Tokyo, Japan 157-8511
Tel/Fax: 03-3482-1497 E-mail: globalstudies@seijo.ac.jp
http://www.seijo.ac.jp/global/